京城新報

●陰曆 十一月十七日

編輯兼發行人 山下英[illegible]
印刷人
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

漢城だより(一)

栗巣生

記者足下、余は十年以前に於て漢城に羈客となり、亦た八道を跋渉したることありき今や再び來りて漂客となりぬ、山光水色は依稀として當時の觀を革むるなしと雖も、人事百般に至りては、殆ど隔世の觀有之候殊に轉轉は人の歷史、追懷は心の花なりとかや往時を回顧し現時を批評するも亦た一興かと存候

追想すれば、當時井上馨は公使として、齋藤修一郎、星亨、仁尾惟茂等の腕利を幕僚として率ひ來り、日清戰役の餘威に乘じて盛に經綸せんとせりき、先づ溫厚なる金宏集を首相とし、魚允中、朴泳孝、鄭秉夏等の日本派を擧て、內閣を組織せしめ、日本流の法例を輸出して雨の如く降し、韓人を困らしめ、癖習を短縮せしめ、斷髮を勵行し以て渠等をして頻に堪へざらしめ而して井上は露公使ウエバーの辛辣なる外交に翻弄せられ、故閔妃の嬬舌に欺れ、惨々に手古摺りて、龍頭蛇尾に終り候ひき、

歷史は繰返す、今や伊藤公統監として、鶴原君、木內君、岡君、石塚君等の秀才を率ひ來る、何ぞ甚だ相似たるや、鶴原君を齋藤とすれば、石塚君は星亨か、法例製造は井上時代に尚は緩る、而して井上は失敗し、伊藤公は成功せり、時代の變遷、四圍の事情の異るを以て同一に論ずべからず、若し夫れ井上をして、日露戰役後に來らしめば或は成功せしならむ、人世の過不過は天命乎、由來成敗は以て人格を定むべきものには無之候、

齋藤修一郎と鶴原定吉君、之れ好個の對照齋藤の人となりは、親炙したるもの、外は多く誤解せり、渠の磊落放膽なる、往々人をして傲慢無禮なりと思はしむ、金時計文官の假名は、人をして財に吝なる如く思はしむ、何ぞ知らむ、渠は交友に厚く部下には惜けあり、財には全く冷淡なり、蓋し女には甚だ脆し、豪膽を以て井上に用ひられ、不謹愼と財に淡なるを以て捨らる、鶴原君は如何、傲慢は及ぶべし、豪膽は及ぶべからず、財に淡なるや否は我れ知らず、女にかけてはより以上の力量あらむ、齋藤は腹氣の中に鋭利なる才鋒を藏す、渠にして井上を毅分させず且つ不謹愼ならざれば既に大臣の椅子は優に得たるならむ、外交官としても小村、栗野以上の位置に居らむに好漢惜むべし、鶴原君の才氣亦た進發し得具からざるの材なれども、器極て小なるを遺憾とす、其虛榮心の强き所は伊藤老公に酷似せりと、而して人世の游泳術に於ては遙に齋藤に優越せり、今や齋藤は失敗し鶴原君は成功せんとす、之れ亦た宿緣の致す所乎、

組合教會の神學に就て(上)

綱島佳吉

本篇は目下當地へ傳道事業視察の爲め來られ居る神學者綱島佳吉師が先般大阪に於て開會せる組合協會總會信徒大會に於て爲したる演說なり

余は組合協會に一定の神學なるもの無しと信ずる者なり、若し有りとして之に定義を附するが如きは頗る危險なる事に屬す、而かも同時に組合協會の神學に就きて論ずるは頗る興味ある事たるを覺ゆ。元來我組合教會は飽まで思想の自由を貴ぶもの也。故に或者は過激なる進步思想を唱ふるものあり又或者は極端なる保守思想を抱くものあるべし斯く相異なる神學思想を抱く者が互に相提携して協同一致し行く所に組合教會の特色は存するなり組合教會は自由主義の會なり、其思想は常に進步し發展して毫も一處に定住することなし。

例へば明治廿四年に金森通倫氏が「我邦現今の基督教并に將來の基督教」なる一書を公にして當時の人心を驚かしたることありしが、之に對して熱心なる攻擊論評を試みたるは橫井時雄氏なりき、而も橫井氏が其後三年にして「我邦に於ける基督教問題」と題する一書を著はしたるに其內容は先に攻擊したる金森氏の說よりも更に一層進步的なるものにてありき。而して吾人今日此等の二書を繙く時は其或部分は同感なれども他の部分に於ては贊成し能はざる點少からず、有體に云へば、兩氏共未だ熟せざる思想を餘りに早く發表せしにあらずやと思はる。兎に角思想の自由發展は我黨の特色也。かゝる進步的傾向は獨り我邦組合教會に於てのみならず、海外に於ても亦然り今より十七年前英國に於て組合教會の世界大會を開きし時米國バンゴール神學校の教授ストールン博士は「合衆國組合教會に於ける神學思想の傾向」なる一論文を朗讀したるにエール大學のフキッシャア博士の如きは之を激賞して最も進步せる神學思想の產物なりと叫びたるに係らず、今日より之を見れば頗る時勢後れの思想たるに過ぎざるを見る。更に又今より八年前英國ロンドンに於て「ユニテリアン并に自由思想家の大會」なるものを開き其論文を集めて「二十世紀初頭に於ける自由宗教思想」と題して當時此書に就きて論難攻擊の聲頗る高かりしに係らず、今年ボストンに於て開かれたる同會に於てはユニテリアンなる名稱を除きて單に自由宗教家大會てふ會名を用ひ現代米國のコングレゲショナル教會中錚々の人物たるアボット、ゴルドン、スローカム、ツウヰング、ブラッドフォード、ハイド等の諸名士は啻に之に同意するのみならず自ら會員となりて斡旋しつゝあるを見る。

我邦に於ても一時は破壞的神學を唱ふる者として攻擊せられたる獨逸派の新教神學校が今回我組合教會の一部と提携して經營せらるゝに至れるが如き以て我邦神學思想の大勢を察するに足るなり。我組合協會の神學思想は常に進步變遷の途上に在り、從つて何等獨斷的なる一定の神學なるものあるを許さず、唯だ大綱を捕へて枝葉に亘らず根本思想を認めて之れが解釋は全く各自の自由に一任し去るもの也。例へば十五年前の總會に於て我黨は組合教會の信仰の告白なるもの五ヶ條を議定したるは諸君の熟知せらるゝ所なれども、之れとて極めて概括的のものにして之れが解釋は各自の自由に一任すべきもの單に便宜上信仰の大綱を表白したるものなれば之によりて何等思想上の制限を受けたるにあらず、思想一たび一定の信仰箇條によりて制限せらるゝ時は茲に進步發展は阻害せられざるを得ず、我組合教會に一定の神學なきは此上もなき幸福なりと云ふべし、自由の空氣を呼吸するものゝ如何でか能く窮屈なる檻欄中に在りて滿足するを得んや

斯くの如く我組合教會の神學思想は極めて自由なり然して其要素を尋ぬれば保守的なる蘇國神學あり進步的なる新英洲神學あり而して急進的なる獨逸神學あり箇人の感化としてはロボルトソン、ビーチャー、シュライエルマッヘル、ドーノル、チャンニング、ブシネル、ムーデー、スポルジョン、マルチノー、フライデレル、ハーナック等雜然たる各種の人物の思想を包容して打つて一丸と爲しつゝあるなり、即ち世界上の有らゆる神學思想が混沌として我組合教會の思想界の溶爐中に流れ込みつゝある間に何時とはなしに我黨の神學思想は形成せられ行くものにして余をして忌憚なく云はしむれば今や吾人は何ほ研究の途上に在り今に於て神學を組織する抔云ふは實飛の考なりと云ふべきなり、一定の神學なるもの未だ現はれざるは偶ま以て將來の大發展を豫想するに足るものにあらずして何ぞや

鐵道當局と會見(續)

第四 京仁線及運賃并に貨車の件個數及斤扱等の取扱に關すること

本職は京仁線の運賃は之を京釜線の運賃に比し其取扱面倒にして且つ割高となる測定のもの多々あるに付き此種のものは京釜京仁兩線同樣の取扱を受けたく此の點に付ては曩きに商船會社より同會社の船荷に付ては噸扱を以て京城へ輸送されたき旨管理局へ申込みたることありて同局にとりては一考を要することとなるべし同事務官は自分等に對して意見を與へ呉るゝに於ては京釜と同樣に取扱ふ樣致すべき旨を答へ尚なるべく便宜の取扱をとりつゝありと云へり本職は實際は尚然らざる旨を述べたるに同事務官は此點に付ては尚當業者と會見を遂げたる上にて定むる樣に致すべしと言ひ殘したり

尚同事務官は此間に於ては鐵道の輸送力乏しきを唱へ貨車の不足を傳ふるものあるも實際は決して然らず管理局に於ては其の日々の輸送高幾何なるかは常に注意を加へ居るのみならず一定の最大限度を立て其の限度に達するまでは極力輸送に努めつゝありと雖ども未だ所定の限度に達したることあるを發見せず然るに貨車の不足を訴へ輸送力の乏しきを唱ふるものあるは如何なる譯なるかと云へば運送營業者が爲にする所ありて放つ所の訛傳に外ならずこは運送業者は貨主より貨物の運賃を個取りにし又は斤扱にして數日間集め置きて噸數に達するを待ち鐵道の方へは噸扱に爲し中間にありて其差の運賃を貪らんとするに固るなり又は斤扱にしたる貨物を噸扱にして中間にありて二倍以上の運賃差額を得て自己の嚢中を肥すことを得べしては必竟するに貨主に於て鐵道運賃を熟知せざるに乘して個取り又は斤扱にて受取りたる荷物を名を鐵道輸送力の乏しきに假り或は貨車の不足に托して數日間堆積し置き寄託貨物が噸數に達するを待て始めて噸扱となし運送し其間に奇利を博せんとするの弊害あるより致す所にして往々三日前に託したる貨物が尚ほ京城に達せずと云ふ如き苦情を聞くは必竟之れが爲めなり此點は充分貨主に警告を加へ斯る不正の營業者に欺瞞せられて損害を被ることなき樣注意せられたし就ては本日大貨物案內及手小荷物賃金表附小荷物運賃早見表等を持參したれば當業者へ御配布を乞ふ旨繰り返せり

第五 鐵道運輸事務取扱吏員に關すること

話頭の進むに從ひ本職は鐵道輸送係り員の中には往々非難の聲を聞くことある旨を語りしたるに同事務官は敢て之を否認せず却て其取締の方法を問へり依て本職は斯る非難の聲を聞くは畢竟俸給の低廉なる吏員を使用することと及び監督の不十分なるとに基因すべく俸給低廉なるが故に諸種の誘惑に打勝つこと能はず爲めに偏頗依姑に流れて其間不正の賄賂を受くるが如き徒の生するに至るべし假令鐵道の取扱を改め直通を開始し又は直扱に改むる事とするも此弊害は容易に除かれ得ざるべしと注意したるに同事務官は此の弊は今に於て起たるにあらず京釜鐵道會社時代より當局者は非常に其取締に苦心せる所なるが此節は斯る不正の嫌ある者は免職せられ又は懲戒せられ轉任を命せられ最早斯る弊害は稀有なりと信ずるも尚當業者に於ては注意を加へ斯かる事實を發見せば直に通報を願ひたし充分事實を調査したる上にて相當の處分を加ふべしと云へり

尚ほ同事務官は右に開陳したる事項は貨主にも傳へ郵船商船會社及び運送業者の代表者にも傳へんが爲め來仁せりと附言せり

本職は以上の會見顛末を新聞紙上に公表しても差支なきやを問ひたるに固より差支なきのみならず公表せらるゝこそ望ましき旨答へられたり。(以上)

戰線の家庭

(臺灣隘勇線の事)

●日清戰爭や日露戰爭は今や過去の夢となつたが吾が日本帝國の領域內にはまだ日夜止みなく戰爭が行はれ、時々戰死者を生じて血腥さき風が絕えぬ地方がある。而して其戰線に於て一種特別なる家庭が形作られて居る事は恐らく多くの讀者の御承知のないことだらうと思ふ。

●其戰線● といふは臺灣の隘勇線の事である。隘勇線とは一口に言へば生番の住んで居る土地と、吾々文明人の住んで居る土地との境界線の事で、元來生番とは臺灣全島の三分の二といふ廣き區域を占領しながらも、未だ天化に濕はぬ野蠻蒙昧の種族である、曾て今の滿鐵總裁後藤男爵が臺灣民政長官たりし頃、吾輩は三千年間の帝王であると言はれたが、其は臺北の如きは二十世紀式の大都府で、住民は內地人と臺灣人とを問はず皆是れ文明開化に浴せる國民であるのに、山一重距てたる彼方には、文化の程度三千年遲れたる生番が棲息して居るとの意味である。蓋し斯樣の土地は世界中餘程珍らしいであらう。

●生番● には隨分色々な種族がある樣だが要するに殺伐粗樸で、吾々の村落へ出て來ては、人を殺して首を斷て持て行くといふ事を常業として居る、而も之を征伐せんとせば、山又山の奧深く逃げ隱れて、鳥獸の如くに奔つて步くのみならず鉄器を持て居て射擊が非常に巧みで百發百中の妙を極めて居る。或將官をして予は此種な兵隊を一中隊當てがつて呉れたらば世界を征服して見せると迄歎ぜしめた位で、何とも始末に行けぬ手合である。

●隘勇線● の必要は其處から起つたので、畢竟生番を文明の區域へ入り込ませず、又支那人などが彈藥の類を彼等に密賣することを防ぐ爲、生番の棲んで居る部分即ち所謂番界と、文明人の領分即ち所謂行政區域との間に、蜿蜒數十里に亘つて一大線路を伐り開き、若干の距離毎に番人を置き、若し此線路を侵して往來するものあれば立ろに之を射擊するの仕組みとなつて居る。其番人が即ち隘勇で、其監視の爲の線路が即ち隘勇線である。

十一月中金融狀況

本年は例年に比し氣候頗る溫暖なる爲め各種諸工事の繼續しつゝある結果之に要する資金の需用尚は止まず雜穀買出に付ては地方騷擾の爲め例年の如く盛ならざるも京仁其他居留地附近より弗々出荷あり亦一方は木綿毛布雜貨等の仕入資金の需用增加し且歲末に近き市場稍や活氣を呈し漸次繁劇を加ふるも例年に比する時は幾分緩和の狀態にあり

文苑

水原慶夫

こゝろして栗師が起にもるひねになやむ病人いねにけるかな

雲

花とまがひ月のあやともなる見れば雲もしろきこころさからぬかな

小說 紘のみだれ(三十)

永井櫻園

清之助は自分が初目見得の其時から、多大の同情を寄せて、料理亭に招いて饗應した上過分の祝儀を與へ、乘目を引くべき幕……上下など與へて、陰に陽に人氣の振興に一方ならぬ力を入れて呉れた山田邦男が突然姿を隱したのみならず、和田垣家にも居らねば、美術學校をも退學した事實を探ると共に、それが原因は東京タイムスに掲げられた、自分との關係からであらうと思ひ、其後と云ふものは氣の張合がスッカリ弛むで、寄席には出るものゝ、樂屋に居つてもこれまでのやうに活々とした樣子がなくなつて、動もすると火鉢を瞶めて思案に耽り、物や思ふと朋輩から問かれる事も度々である、のみならずこれまで誇顏に着て居つた、彼の美麗な上下も、意匠を凝したる彼の幕も、俄に納ひ込むで、幕も他の幕、上下も以前の其を着て、語物も何となく調子がこれまでのやうに冴々しない。けれども人氣と言ふは恐るべきもので、心ある人こそ聽分もすれ、聽客の多くは清之助の名に眩まされて、冴ぬ調子も、渠が美しい顏に醉ふて無暗に拍手喝采に迎へるのである師匠の清糸は、早くも其語振に眉を顰めたが、しかし清之助の人氣に免じて其日は語振に就いては一言も言はなかつたが、幕や上下に就て笑談らしく斯う言つた

「お縫さん(清糸は清之助を呼ぶに本名を呼ぶ)お前さんは、何故彼の幕(山田が贈つた後幕)を下したり、上下を替たりしたの……何だか今夜は舞臺が淋しかつたと云ふ評判だよ。」

清之助は微笑ながら

「何故で事も無いんですけれど、何だか彼が瀾して語り惡いから替ましたの……。」

すると、傍に居た姉弟子で、平常から清之助の人氣を密に妬んで居た清造は

「あれ、お師匠さんは其事情を御存じないの……そら縫ちやんの大切な人の事が新聞に出たでせう、だから彼の方への心中立なんですわ。ね清六さん。」

すると、清六と云ふ太つちような女が、子鼻に皺を寄せて笑ひながら

「そりや極つて居ますわ、だからでの[illegible]日縫ちやんの茫然してる事ッてッたら無いでせう、私病氣にでもなりやアせんかと心配してあげてるわ。」

清之助の三味線を彈く清糸は、其處が最負が附くので、清之助の肩を持ち

「そんな事を言ふのは縫さんを[illegible]ふもんだわ、何も愛顧を受けてる方の[illegible]が新聞に出たからッて、茫然する事も無いぢやありませんか、自分等も隨分お互の事で騷ぐ癖に、若い人に揶揄ふもんぢやありませんよ。」

と、針を刺した、なる程と思つたか喋々と囀つて居つた雀群、急に口を噤むで舌を[illegible]となつた。清之助はあらずとも[illegible]する積りから、朋輩弟子にまで左や右と云はれたので、口惜しさと悲しさに涙を含むで居つたが

「お師匠さん、誠に濟みませんけれど、[illegible]剰から頭が割るほど痛くて辛抱が出來ませんから、今晚はお先へお暇下さいませんか。」

と云ひ了つてホロリと涙を零した。

「そりや取んだ事だね、遠慮せずに早く歸つて往くが可い、俥を言つて上げるから…。」

「いゝえ、其處まで出て勝手に乘りますから、ではどうぞ御免下さい。」

と、其まゝ幕と上下の包を抱て歸つて[illegible]



京城新報

●統監府の閑却

今の統監府は手を拱して暴徒の靜まるを待つの外妙案なしと云ふも過言ならざるべし、官制の美、法令の善、如何に文明の形式備はれりと雖も、帝國の發展は今に於て得て望むべからず、統監政治の怠慢無能も甚しからずや。

●宋某の侮言

韓國農相宋秉畯なるもの我邦に於て大言壯語し日本當局者を無能と爲し、甚しきは泥坊同様なりと惡罵せしとの事なるが、斯る不謹愼なる言語を公にせられて一言半句の答辯も聞かざるに至りては、宋某の勢力も亦偉大ならずや、宜なるかな伊藤公が賞して我を知れるものは宋一人なりと。

●祭禮式政治

宮殿を建築し、宮殿を修め、宮殿の移轉、使節の往復、其の上に於て官制の發布となり、始より終に至るまで祭禮的政治なるのみ。

●天下の百姓や、實力の發展は、祭禮見物に倦み果てたり。

●人道と帝國旨義の混戰

韓人に對しては博愛人道を說き、日本人に對しては帝國旨義を唱ふ、恰かも是れ正妻と愛妾とを同室に置くの遣方ならずや。

▲入米日本人

（ルーター電報）

一千九百七年の會計年度内に日本人の米國に入りたる數は一万五千五人にして昨年度に倍せりといふ（十八日發）

雜報

●韓太子の東京着　韓國皇太子には十五日午後二時四十五分を以て鐵路恙なく御入京あらせらる此日梅澤少將の指揮せる近衛隊は停車場前より御旅館芝離宮の間に整列し日韓兩國旗は驛前高く揭げられて風に飄へりプラットホームより御車寄昇降口までは赤フランネルを敷きて御通路に充てたり偖二時前後より馬車或は腕車を驅つて停車場に來る奉迎者引も切らず大禮服着せる文武官所狹き迄立交り勳章と肩章と相映じ金モールと劍光と相照し燦爛として目を眩する許りなり奉迎者の重なる者は井上、桂兩侯、岡澤、大島、乃木各大將、花房宮內次官、安樂警視總監、德川、杉田兩議長其他朝野の名士二百餘名にして軈て我皇太子殿下には御盛裝にて停車場に御着便殿に入らせられ有栖川、閑院兩宮殿下にもプラットホームに入らせらるゝや近衛砲兵聯隊の發射せる禮砲の轟きと共に韓國旗を先頭に交叉せる列車は徐ろに入り來れり汽車の止まるを待つて伊藤太師は英親王の御手を執つて出で來りたるが此時有栖川、閑院兩宮殿下は左右より太子の御手を握らせ給ひ暫く御對談ありこの日太子は御禮裝にて胸間に日韓の勳章を佩ばせられ御肉つき豐かに御血色もいと御活潑に見受け奉りしが左右より有栖川、閑院兩宮殿下並に伊藤太師に擁せられ平井鐵道課長の先導にて歩を進ませ給ふ時我皇太子殿下には便殿を出でさせられプラットホームの入口へ立たせ給ひつゝ御手を擧げて挨拶ざし給ひしに英親王殿下も御見知りの間柄とてサモ御懐氣に我皇太子殿下を擁せば我殿下はさながら弟君に對するが如き御態度にて甲斐々しく勞はらせ給ひ夫れより徐ろにプラットホームを出でさせらるれば奉迎の群衆は一齊に萬歲を連呼して潮の湧くが如く近衛軍樂隊の奏樂劉喨として起る中を韓太子は悠々げに進ませられ御車寄昇降口より有栖川宮殿下及伊藤太師と共に宮內省の馬車に御騎乘近衛騎兵半小隊の儀仗兵前後を護衛し供奉員の馬車之に續き芝離宮に向はせられたり、我皇太子殿下には英親王の馬車に召さるゝまで傍に附添ひ給ひて懇に御旋あらせられ御立を見送りて再び便殿に御少憩の後三時過還啓相成たり此日停車場前の混雜非常にして何れも熱心に歡迎の誠意を表したり

韓皇太子の奏電　一昨十七日皇太子には昌德德壽の兩宮の安否を訪はれかねて公式謁見の場合は万事注意すべければ御安神ありたき旨を報せられたり

李宮相の電奏　十七日午後六時上京中の李宮相は昌德・德壽の兩宮に宛て兩闕御安寧なりや皇太子殿下には行啓以來夜中御安寢遊ばされ御食事は專ら洋食を進ませらる旨を電奏せり

露帝命名日祝賀會　本日はニコラス皇帝の命名日に相當するにつき曾禰副統監を始め其他日韓の重なる高等官を招き祝賀會を開く由

●內部大臣躊躇す　自衛團法は先頃中重に內部の發意により出來たるものゝ由なるが近來に到り內部大臣任善準は如何なる故にや自衛團を地方に實設するに付大に躊躇しつゝありと云ふ

曾禰副統監の午餐會　曾禰統監代理は本日統監邸に義和宮及び各皇族各元老を招待して晩餐會を催す由

嚴俊源の渡日中止

皇太子の守護として嚴妃より渡日を命ぜられたる嚴俊源は一時日本行きを中止し來年春陽の候にいて渡日することに決定したり右は皇太子の身の上を杞憂したる嚴妃も東京における優遇の模樣を承知して以外に安心したる爲なりといふ

皇太子の乳母及熟手の渡日　嚴妃の命により今十九日皇太子の乳母及び熟手（料理人）を東京皇太子の元に出發せしめたり

●ロンドン商會事件落着　佛商ロンドン商會と宮內府との間の商品代金未拂事件は韓政府と佛國總領事との間に於て交渉中なりしが左の條件の下に此程漸く落着するに至れりと云ふ

一、即時金三十万圓を韓國政府よりロンドン商會に交付する事

二、現今香港に庫入中の小銃五萬挺彈藥百萬發を其儘ロンドン商會に付與する事

三、現今仁川鎭南浦に庫入中の平壤礦山用器械は現狀の儘ロンドン商會より韓國政府に引渡す事

▲駐米獨大使の後任　青木駐米大使の後任は[illegible]田外務次官に井上駐獨大使の後任は[illegible]部六氏と內定

▲公使館設置

●京城丸の座礁　雜貨若干個船客三十六名を乘せて阪神より仁川港に航海中なりし京城丸は一昨日群山沖に來るや海圖に記載なき暗礁に觸れて坐礁したる[illegible]に轉して仁川港に送りたりと

●改正稅率施行延期　輸入貨物の改正稅率に關しては曩きに仁川稅關當事者間と仁川商業會議所との間に協定せし如くなるが改正の結果其の低率となりしものは即時實施し高率となりしものは十二月廿一日より施行すべき筈なりしも都合により來四十一年三月廿一日迄延期する事となりし由

●鑑定官會議終了　過日來總稅務司廳に開かれつゝありし鑑定官會議は昨日終了せしを以て仁川稅關より出席し居たる黑部稅務課長及び齋藤鑑定課長は昨日歸任せり

●一昨夜の民會　一昨夜六時より民團役所樓上に於て開會せし居留民團臨時議會は熊谷民長　科助役等列席し出席議員十名にて前號所載の議案に付討議し漢城病院職員給與規則中に多少の修正を加へたるのみにて他は原案通り可決し終て小學校敷地買收、漢城病院南山病室設立及び高等女學校設立に關する件に付協議會を開き同十一時閉會したり

●稅法調査會協議案　來る二十二日民團役所に於て開會する稅法調査會に於ける協議案は左の如し

民團稅則改正に關する協議案

本民團稅則は本年度豫算編成の際倉卒之を制定したる爲不備の點不少例せば戶別稅は現在廿四等に分ち賦課し居るも上位及末位の等級に相當する者は負擔輕く中位に相當する者は負擔重きに失するの奇觀を呈し課稅上不公平の嫌なき能はず又營業稅は現今漸次發展の商況より見るときは其の課稅甚だ輕きに失するが如く土地稅亦其の收入に比し課率の低き等其の雜種稅に於ても取捨すべき點不少思料せしを以て吏員に命し內地に於ける府縣稅及市町村稅等の課稅標準等夫々調査せしめたるを以て不日官民の重立者十數名を會同し稅法調査會を開催するの計畫なり各位に於て是等稅則改正に關し御意見あらば此際承知致置たし

經濟協會十二月例會

市原幹事長の盡力により近時經濟協會が大に赴きつゝあるは喜ぶべき現象なるが一昨夜日本人俱樂部に於て開催せし同會本月例會には出席者數十名にして晩餐後哲學博士市原盛宏氏の『植民地に於ける金融機關に付て』なる有益なる講演あり續て三浦彌五郎氏の未墾地利用談あり終て別席に移り久田宗作氏野村才二氏中井喜太郎氏及峰岸本社長の經濟に關する演說ありたり因に同會にては今後每會知名の士の講演を乞ふの外會員中の有志者に經濟問題に就ての意見發表を求むるとの事にて來月の例會には會員某々氏の演說あるべしと云ふ

●教育俱樂部發會式　京城教育會にては過日の評議員會にて決したる如く教育俱樂部を設くることゝなり本日午後六時京城小學校に於て其發會式を擧行すると云ふ

銀行支店長交迭の影響

第一銀行仁川支店長野口彌三氏が東京本店詰となり同銀行平壤支店長太田氏が野口氏の後繼者となることは世人の知るところなるが右に付事務引繼準備の爲目下仁川平壤の第一支店は貸出を中止し回收一方にのみ掛り居るを以て左なきだに商人諸氏が資金を要する歲末に際し殊に米穀の出廻り盛なる今日に於て貸出しを中止せられて舊債務の返濟のみを爲すことゝなりたるを以て平壤仁川の第一專屬の取引者は勿論一般商業者にも尠からざる影響を與へつゝありと云ふ

●富田民長の談話　仁川富田民長は不日仁川各新聞記者に對し四十一年度民團政に干し種々談話する所あるべしと

道路測量復命書

前號に記せし如く京城民團役所に於ては道路修築の爲め技師をして豫定道路の測量に從事せしめ居りしが既に結了せしを以て當該技師より熊谷民長に復命したるものを左に揭ぐることゝせり

線路の選定

一、線路の選定は其の大體に於て已に泰命のあるあり一つは南大門停車場前より南山々麓を經て日の出町に接續し一つは明治町二丁目より光熙門に至るもの即ち是なり而して實測を遂げたるの結果左記の通之を選定す

前段の線路は南大門停車場前龍山街道より分岐し鐵道管理局構內を橫斷し城壁を貫き東に向ひ京城小學校前に於て日の出町に接續するものとす其の後段の線路は明治町二丁目電車通の角より光熙門に至るの間は現在の道路を襲用して只其の幅員を擴張するに止め其の中間を以て新築するものとす而して新設の線路は明治町三丁目と永樂町一丁目との交叉點より仁峴小學校南部を經て双林洞地內に於て本町十丁目に接續す

此の如く線路を撰定したるものは可及的屈曲と急勾配とを避け以て交通機關たるの本旨に副はしめ又工費を節減する爲高壯雄大の家屋を避け傍ら本町との位置を適當ならしめん事に務めたり然るに稍其の宏大なる三五の家屋は移轉の避く可らざるものありて存す則ち別紙平面圖の如し（圖略す）

線路延長幅員勾配及構造並橋梁排水

一、南大門日の出町間の道路延長は九百五十間明治町光熙門間の道路延長は千三百九十二間にして幅員は各六間とす勾配は二十分一即長一間に付三寸の落差あるものを以て最急勾配とす

道路被覆面の構造は（テルフォード）式とす

新道改築の爲切取をなし在來道路の交通を絶つものは跨道橋を架設して其の便を計る計畫にして亦新道路の中央施行面以下三尺の位置に於て幅二尺高三尺の暗渠を設け以て排水の要に供す其の板橋石橋暗渠の構造及高低の差等は別紙橋梁暗渠并に縱斷面圖の如し（圖略す）

敷地及家屋移轉

一、家屋移轉は煉瓦二階建を一等とし煉瓦平家及日本二階建を二等とし日本平家を三等とし温突を四等としバラック建を五等とし其總坪數五千六百七十二坪一合八勺敷地は在來道路敷川敷及畑宅地とに區別し其內潰地總坪數一萬七千九百九十八坪四合五勺金員を仕拂ふべき總坪數一萬三千四百二十七坪一合四勺とす別紙明細書の如し（圖面及明細書略）

●高等女學校設立に決す　高等女學校の設立は現下の急務なるが同女學校の設立に就ては一昨夜の協議會に於て略ぼ設立することに決したり

軍糧と韓國精米

遠航輸送の多費を避けんが爲め關東州內各軍隊の軍糧を韓國米に仰がんとし其下調査に去月二十五日より韓國馬山、群山、鎭南浦、仁川の各地を巡回し居たる渡邊關東倉庫長は十一日入港の信濃川丸にて大連に歸着せしが同氏の語る所によれば前記四箇所には一月千石以上五千石を製し得る精米所あれば以て我軍糧を得べし唯恨む最上等を產出する馬山、群山は地狹隘にして米生產の多からざる事を然れども四箇所何れも質は佳良にして運賃をかくるも精米一石十七圓にて大連に搬致し得べく內地の玄米十六圓に比して大に低廉なりされば目下は戰役時代の殘米尙存するにより月一千五百石の韓米を輸入し混じて糧餉に宛て殘米盡くるに及んでは全部の供給を韓米にて爲す事とし月二千五百石を輸入する筈なりと云り

江原道の賊徒

灰峴守備隊馬場少尉の一行は去る六日泊陽郡長陽面泥峴に於て暴徒約百三十名と衝突し其の十名を殪し一名を捕虜とせり

金城郡任南面科湖里に去る五日暴徒二十七名來襲し同里長を毆打し且引連れて何れにか逃走せりと

本月一日出動せし相良少尉の率ゆる二十一名は揚口郡淮陽郡を經て歸隊す其の齎らす所の報告によれば島川居暴徒の巨魁金相泰は部下の掠奪し得たる金三千圓餘を橫領して何れにか逃走したるより部下散亂せりと

知禮郡の暴徒

知禮郡守の報告に依れば去る十二日知禮の西南約三里半に當る德山洞に七八十名の暴徒來襲し又去る十三日同じく同地を距る西南約三里の安洞といへる所に三十名の暴徒來襲せりとの事なるが右暴徒は何れも茂朱方面に去りたりと

忠州の賊徒

賊魁李明相の率ゆる約二百の匪徒忠州郡德山面城內に根據を占め慶尙北道聞慶郡明田里に集合中の李康年と遙かに連絡を取り軍用金の徵收をなしつゝあるの情報を得我軍隊は七日午前十一時より翌八日午前三時迄の間に其の巢窟を包圍攻擊せしかば賊は死者二名を遺棄し暗夜に乘じて雪林道甚方面に潰走す此の日銃一挺彈丸五十個雜品若干を鹵獲せりと

暴徒內應者の捕縛

揚州郡大聖庵住職文正廉は本月五日蘇島を襲擊せし暴徒連類者の嫌疑あるを以て六日の討伐により逮捕の上糺問したるに彼れは暴徒の情を知りて密かに自己の所有家屋を給與したる事實明瞭したるにつき一件書類と共に訊問課に送られたり

●暴徒茂朱に集まる　土人の言ふ所に依れば五六百名の暴徒茂朱に集まり被服の修理を爲しつゝある狀況なるより一般人民は頗る恐怖の念を抱きつゝあるが昨今偵察中なりといふ

暴徒の運搬者銃殺

本日十三日加平分遣巡檢の報告によれば馬場里に暴徒の衣服を運搬せるもの三名に出會し巡檢の誰何により抵抗したるを以て一名は銃殺したるも二名は遂に遁走したり

年賀郵便の便法

年末年始に際し年賀郵便の一時に輻輳する爲め一般郵便物の遲延澁滯等非常の錯雜不便を免れざるを以て之が豫防救濟の手段として年賀特別郵便規則の便法を設け既に本年も本月十五日より之が取扱を開始しあるも一般公衆に於て該規則に注意し特別取扱の利便を享けんとするもの極めて稀少にして殆んど其の効用を知られざる如き觀あり左に其の規則大要と利便の點を列記すれば

一、年賀狀を發せんとする者は之を一束とし『年賀郵便』と記載したる附札を爲し十二月十五日より同廿九日迄の間に郵便局所の窓口に差出すべし但し通數少きときは之を封筒に納め『年賀郵便』とのみ表記し附近の郵便函に投入することを得

二、前項に依り差出したる年賀狀は郵便局所に於て直に一月一日の日付印を押捺し之を各宛名地の郵便局所に送付し置くものとす

三、各宛名地の局所に於ては前項に依り送付を受けたる年賀狀にして十二月末日迄に到着せしものは總て之を保管し置き一月一日の第一號便より配達するものとす

故に一般公衆にして年賀狀を差出さんとする者は十二月十五日以後は日々閑暇を見計らひ差出し置くときは年末最多忙の期に迫りて一時に多數の信の混雜繁勞を要せず又郵便局所に於ても日々引受けたるものを順次發送並に配達區分方等豫め悠々準備し置くことを得れば錯雜紛送等を避けて充分鄭重なる取扱を爲す等自他共に得るところの利便至大なるのみならず元日早々遠隔の地に在る宛名人に配達せらるゝものなれば可成年末に迫らさる內に一日も速に前記第一項に依り發信せられんことを勸るもの也

●唐津仁川間航路　從來佐賀縣に於ては唐津釜山間航路に對して補助を與へ居りしが今回之れを延長して唐津仁川間航路とし補助金を下附する事となりたりと因に該船は仁川協同組之れを取扱ひ居りといふ

●鎭南浦終航　鎭南浦は本月中に結氷するやも計られざる有樣なれば郵船會社にては本日仁川港出航の第一オハヨー號を以て終航となし今後は臨時船を出さゝる由なりと

●間島の狀況　間島は面積總て二百里にて中六道溝は太拉子より五里東盛街二里餘の手前に在り一名龍井村といふ統監府間島派出所の所在地にて西頭道溝より天寶山に出で南下し茂山間島に入り清韓爭議の分界碑ある白頭山に到り西下して吉林、韓滿外に入り一方は北局子街に出で北東渾春より浦鹽、哈爾賓に赴くの要路に當れるのみならず一方に偏せずして全島統治の好適地たりと云ふべき派出所は目下工事中にして本館と病院郵便局は略出來し居れるが假工事のまゝとて粗末千萬なり更に粗末なるは現在の事務所なり是は約七八坪の地に朝鮮流の藁葺小屋を建築して此の中に執務し居れり清國人は之れに反し僅に數畝の地を有する農民さへ比較的立派なる家屋に住し宜邸の如きは驚くべき建築なりといふ

公人私人

▲地田活之助（財政顧問附技師）　十七日平壤より來城旭館に投宿

▲村井因憲（憲兵中尉）　同日釜山より來り金淨旅館に投宿

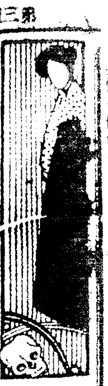
▲竹崎六次郎（金州理事廳副理事官）　十七日仁川より來り浦尾旅館へ投宿

▲古川活（獸醫師）　同上原金に投宿

▲治外法權▼

窮すれば必ず通ずる、韓國經濟協會の如きも決して此理法以外に立つて居らぬのは天地間の理法である、何の爲であつたか一時甚だ振はなかつた同協會も再任市原幹事長の指導宜敷を得て再び活氣を帶び會勢を盛返した、願くは今後同協會の諸氏が官民の別なく國家をして眞に韓國經濟開發の中樞機關たらしむることに盡力せられんことを記者は衷心から希望するのである▲ところで一昨夜は同協會の例會があつて第一銀行の市原君が昔取た杵づかにて植民地に於ける金融機關に就てなる大講演をやつた、昔より氏を知れるところの余輩は別として是迄市原君を單に銀行の番頭とばかり思つて居つた人には此講演を聽いて大に驚いた樣子である▲氏が多忙の身を以て斯まで詳細に研究を遂げられ余輩をして植民地の金融機關の何物たるかを知らしめられたのは大に感謝するに値するのである、我國の植民地銀行を市原君の言はれた英國式にするか佛國式にするか將獨逸式にするかは大に研究を要することである▲唯茲に余輩が市原君に伺度事は君が目下主宰せられつゝあるところの在韓第一銀行支店などは英、佛、獨のドレに屬する者で在るかである余輩は右に對する學說上の市原君の明答を切に聞かんと欲するものである▲市原君の講演に續て三浦君の未墾地利用談久田時事君の屯田兵談中井錦城君の京城市區改正談峯岸京城新報子の殖民談及御成街道談等ありたるが當夜の談話中の最も奇拔なりしは野村大二君の干渉を排除する爲の干渉を要すとの談話にて一寸聞けば謎の樣だが實は良く時弊を穿つた者にて今や干渉を排除する爲の干渉の必要を感じつゝあるものは只に一野村君のみにあらずして實は十万の居留民も今の境遇上君と同感であるのである

（第三種郵便物認可）明治四十年十二月十九日 京城新報 （木曜日） 第卅四號 （三）



熱田 羽城千軒（續）

社會主義者の理想鄉

▲變つた主權者 かくの如きユートーピアに只だ一人、帝王の如き權力を有して居る者がある加藤某と云つて羽城千軒の中に際立つて冠木門嚴しく鑢樟普請の立派な邸宅を構へて居るが此人は此町の主權者で町民が船に不足を告ぐれば直に船を作つてやる網がいたんだと云へば網を拵へてやる（無論只だ）また金錢を借に來ると直に貸してやるイヤ貸すのではないくれてやるのだその代り漁に出掛けた者は誰でも收穫の一割か二割を御初穗と稱して此加藤家へ獻納する習慣となつて居る

▲時の相場を知らぬ 聞いても嘘のやうなことは此所の住民は時の相場を知らぬ無慾なこと只漁に出かけて漁のあつた丈けを熱田の魚問屋へ持つて來る而して問屋のつけた値次第で賣つて行く決して高い安いのとは云はず問屋の云はれ次第に從つて置いて行くさは其心事の解釋に苦しむ位まで無慾であると云はなければならぬ

▲團結力の一斑 此所の住民は決して他の町民とは交際もしなければ結婚もしない慶事も凶事も羽城千軒で喜憂を共にして行く風習が今も確然として存して居るまた熱田町民の神道信者の多きに反し此所の住民は淨土宗の信者で町中共有の立派な持佛堂があつて不幸があつた場合には其家に此持佛堂を擔いで行て佛事を行ふ事になつて居る僅か千軒たらずの羽城住民は開港とまで發展した名古屋市に包まれながら今尙前記の狀態にありとは餘程研究の價値あるものと思つたけれど日子のなかつた爲めに充分研究する事が出來なかつた只だから云ふ所もあると世に紹介して置く

●麻浦の大火 十七日午後六時頃より麻浦に出火あり龍山警察分署は署員全部を出張せしめて消防組を指揮して盡力せしも折柄風起りて遂に全燒六十六戸半燒十戸破壞九戸半にして午後十一時に至りて漸く鎭火せり消防手小柳芳太郎は屋根より猛火の中に落ちて大負傷をなしたるも生命には別條なかるべしといふ而して此の出火の爲損害額は約十万圓なるべく原因に就ては未だ不明なるも多分放火なるべしとの說あり

●三好和商會主 民團議員三好和三郎氏は曾て三好町を作りたる等目下京城に於て家屋土地經營者中の巨擘なるが今般三好和商會が從來取扱ひ來りし貿易業一切を某氏に讓られ三好氏自身は今後南大門通り新築の三好商會を事務所となし專ら家屋土地の經營に從事せらるると云ふ

●本月中旬の寒氣 本年當地の氣候は入冬以來稍溫暖なりしも去十四日より寒氣俄に加はり同日の最低氣溫は華氏十四度九となり翌十五日には更に十一度三[illegible]れり十二月中旬に於て斯の如き低度を見れば既往十五年間僅に明治三十、三十三、三十六の三年のみ然れども明治三十年の如きは十二月十六、十七兩日に七度七となり三十三年には十二月九日に既に九度半となりしことさへあれば去十五日の寒氣は當地今頃に絕無のものにはあらざるも極て稀なる現象なり殊に十三日より十五日までは華氏二十度も下降したる事故一層寒氣を強めたる感あり（統監府觀測所報）

●電車韓人を轢く 一昨日韓美電鐵の電車は朴會根なる韓人を轢き兩脚を斷絕せしめたり

●悲慘なる一家（つゞき） 此家の主人が普通一遍の賤の者にあらざるも道理元は忠淸南道の德山在とかにて饒かなる財產を有し土地切つての素封家にて出づるに輿あり入るに美姬ありといふ榮耀榮華の身の上なりしが盛者必衰の譬への如く人間の災禍は何時降り來るやも測られず、或時其村に公の出來事起りし折同人は頑固清廉の性質から痛く衆議に反せしに其の結果村內一般よりの怨恨を受け果ては暗に乘じて屋內に投石し又は空砲を放つて威脅かす等の亂暴狼籍に所詮土地に居堪まらずなり一家を携へて何れへか立退かんものをと思案中或夜の事一同寢に就きし折柄何にやらパチ〳〵と凄じき物音のせしより主人は何事ならんと慌てゝ外に起き出で見れば這は如何に吾が家の裏手は既に一面の火となり猛火今や紅の舌を吐きて今にも全家を吞み盡さんとする勢なるにぞ早速家內の者共を喚び出し急ぎ取るものも取り敢ねず辛ふじて身を以て逃れ漸くにして半道許りなる姻戚の家に至りしに何には扨殺急の災難の事とて一物の持出せしものなく只主人が坐臥常住身邊を離さざりし百圓餘の金のみなりしが何時迄も人の家に少なからぬ家族の身を寄すべくもあらねば其の金を資本に細やかながら何か一商賣せんものと思ひ、ある偏僻なる片田舍に引移りて爰に雜貨店を開きしが、もと〳〵榮華に送りし身の馴れぬ商賣に加へて家族の多きより瞬く隙に失敗し、今は三度の食事さへ覺束なく一家相抱いて饑に泣き寒に叫ぶの悲境に陷りしが又如何とも施すべき策なく明け暮れ泣きの淚に寂しき春を迎へ悲しき秋を送りにき（まだある）

無情强慾（九）

クモは久米八及びミヨの二名を伴ふて漢城病院に至りミヨの妊娠檢查を請ひしに目下の處にては不明なりと聞きて醫師の無能を罵りつゝ又もや久米八の宅に歸り來り醫師さへも妊娠の如何が不明なるもの素人のわれ前や私でミヨが妊娠し居るや否やは勿論不明のことなれば是れが判然するまで即ち三ケ月間は疑問中として養育料を貰はねばならねど夫より先きに只今病院へ診察料として拂ひし金壹圓二十錢を私が取替へて居るから只今是れだけは貰はねばならぬ……何じや此の方から診察を受けさすると言ふたのでないぞソンナ馬鹿なことを言はしやんな懷孕して居ることが確實なれば養育料も拂ふと言やつたから夫れを確實むる爲めに診察を受けたのだから前から拂ふが當然なりと傍若無人に怒鳴り散らすより久米八も近所の手前もあることゝて僅かに一圓二十錢只今持合せこそなけれ明日は乾度れ拂すべしといへば然らば證書を認められよとて示したる案文を見れば

借用證

一金一圓二十錢

右借用申處實正也就ては來る十二月五日迄に御返濟可申候一日にても延滯の節は違約金として一日十錢宛の割合を以て元金一同御支拂可申其爲證書如件

明治四十年十二月四日

借主 中島久米八

保證人 中島ミヨ

中島クモ殿

久米八をこれを見て違約金每日金十錢宛とは餘りのことにあらずやといへば然らばた前は明日といふても違約するつもりなりやと詰め込まれて是非もなくこれに調印して渡せばクモはこの證書を受け取りて扨又いへるやうミヨの養育料も一圓二十錢の金が無い位ではいくら責めたとて今の今は出來もすまいが是れも證書にして貰ひませうとて左の如く案文を認めたり

契約證

私儀中島ミヨを其の伯母の承諾を經ずして本年六月十五日より今日まで妻同樣に致居候處今般離緣致し候に付ては同居中の給料として一日二十錢宛を支拂可申候又目下妊娠中なりや否不明につき來る三月十日迄は疑問中として養育料一日金五十錢宛支拂可申候又いよ〳〵妊娠と結着いたし候上は引續き前同樣の養育料を支拂ひ產兒は私方に引取り產後五ケ月もミヨの養育料を前同樣支拂可申候以上は貴殿の御請求により何時にても支拂可申候

爲後證一札如件

年月日

中島八米八

保證人 中島ミヨ

中島クモ殿

クモは猫撫聲にて八米八さん是は萬一の時の證書でミヨが妊娠でなければ反古となるのだ調印だけして置きなされとザモ輕々しく請求しぬ

●說諭願人說諭せらる 太田驛柳町の飮食店田島外次郎なる者昨日一人の婦人を連れて當地本町警察署に出頭していへるよう此の者は宮崎ツノ（二十）と稱し昨年九月三十日より自分方に酌婦に雇入れ置きたる所病氣の故を以て當京城に住み替ねたく申出でしにつき貸金百三十五圓を支拂ひ吳るゝならば其の意に任すべしと答へツノは京城に至れば又何れよりなりとも前借して返濟すべしといふにつき去る十五日自分の妻を同道せしめて出京したる所其の叔父とかいへる本町七丁目酒類小賣商水田孫吉方に來り他に奉公口を探すでもなく貸金の返付を迫れば兎や角言ひ遁れて取合ふ氣色もなきより其の旨自分の妻より打電せしにつき急ぎ自分が出京して當人に就き談判いたせしに貸金の返濟をなす模樣もなきを以て持ち來りたる衣類其の他を渡せといへど夫れも渡し吳れざるにより御說諭を請ふとの事にツノに向つて其の次第を尋ぬると自分は情夫と共に渡韓し太田驛に滯在中情夫が田島屋より借金したるものにて自分は其の金を手にだも取らず然れども半年か一年位稼いで返濟が出來るものならばと思ふて辛い酌婦の勸めもなしたれども借金は嵩を增すのみにて何時身の浮くことやら分らず酌婦とはいへ實は淫賣を爲すことなれば何れにては田島の許を歸ること叶はねば病氣と偽り京城へ住み替ねるといつて其の家を出でしも以來全く酌婦を勸むる所存なし從つて借金は自分の借りたるものにあらざれば自分より支拂ふ義務なしと思へりとの答に貸金は借主に向つて請求するが當然なり又酌婦に淫賣を爲さしむるは不都合なりと却つて田島は說諭せられ這々の体にて罷り下つたるは近來の滑稽なりし

●紀念スタンプ僞造者處刑 曩きに皇太子御渡韓の新紀念スタンプを僞造行使して捕縛され仁川理事廳にて審理中なりし京城旭町第一銀行員島澤淸吉は重懲役六年に同南山町綸藥書商淸沼彌忠治は重禁錮四ケ月監視六ケ月、篠原、麻生兩名は重禁錮三年監視六ケ月、林太三郎は重禁錮二年監視六ケ月に處せられたり

●博覽會の監守盜處刑 京城博覽會開設中第三號館に出品しありし松浦源次郎の所有にかゝるダイヤモンド入の十八金指環二個を竊取したる龍山靑坡居留岐阜縣平民說田五十二（四十）及び京城南山町四丁目居住宮城縣平民熊谷謙治（三十）の兩名は何れも一昨十七日重禁錮七ケ月十五日監視六ケ月に處刑せられたり

●郵便局員の處刑 山口縣大津郡日里村生れの岡本留藏（二十）といへる者韓國大田郵便局に在職中本年八月十日同局內に於て上杉光藏より延靑吉五郎に宛てたる書留郵便物を破毀し在中の五圓小爲替券三枚を竊取し同日同局に於て郵便物配達證を僞造し同月十二日同局に於てこれに同局の日付印を盜捺し同月十四日印版職飯田彌太郎をして延靑の認印を作らしめ同局に於て配達證に押捺し特種郵便物の配達を證明するため豫て設けある帳簿に貼付し置き翌十五日受取人が出頭したる際同局に於て右配達證を示し此の印にて昨日代人へ郵便物を渡したる旨を告げ其の場を甘々と誤魔化し去りたるも惡事千里を走るの諺ありて岡本の所爲なること發覺し一昨日京城理事廳裁判所に於て重禁錮一年六月監視六月に處刑されたり

●仁川强盜の宣告 十月三十日仁川仲町末永吳服店に押入し强盜岡村儀平（二十七）は一昨日仁川理事廳にて輕懲役七年に處せらる

廣告